

『ヘンリー・ソロー研究論集』論文執筆要領

【和文論文、英文論文共通】

1. 章、節等の番号は、アラビア数字とし、ピリオドを付し、左寄せとする。
2. 本文中の引用文、注の本文、引用文献リストの各記述の 2 行目以降、[付記]の 2 行目以降は、すべて全角 2 字下げとする。

【和文論文】

投稿論文の記述方式については、和文論文も *MLA Handbook* 最新版に準じて作成する。しかし、準じ方が判然としない場合や、和文特有の記述法がある場合もある。そこで、以下の規則を補う。

1. 外国の固有名詞の表記

本文中の外国の人名、地名、書名などは、日本語で表記する。未訳の書名については、執筆者が訳す。原綴は、本文の初出の箇所に（ ）に入れて示すが、著名な人名、地名、書名などは、原綴を省略できる。

2. 引用注記

本文中に引用元を示す引用注記を付す際、地の文に引用元著者の情報がなければ、（ ）の中に、著者の姓、半角アケ、頁数の順で記す。

（亀井 35、37）

地の文に引用元の情報がなく、同一著者に複数の文献がある場合は、（ ）の中に、著者の姓、読点、書名、半角アケ、頁数を記す。書名が長い場合は簡潔な形で記す。最初の名詞を含む形が望ましい。

（ソロー、「無原則な生活」 166-67）

（ソロー、「ジョン・ブラウン」 246）

3. 稿末項目（注、文献リスト、付記）

本文の後に、注、文献リスト、付記を、この順で記す。これらの項目の前は、1 行アケとする。注番号は、アラビア数字とし、ピリオドを付す。引用文献リストは、洋書、和書でまとめ、この順に並べる。見出しは「引用文献」とし、参考文献もあるときは、「引用・参考文献」とする。[付記] は最後に記し、口

頭発表の情報や、科研費の助成情報などを記す。和書の文献リスト記述法については、次項で述べる。

注

1. エコロジーという概念は、……。
2. ソローは、この年、……。

引用・参考文献

Thoreau, Henry David. *Walden*. Edited by J. Lyndon Shanley, Princeton UP, 2004.

ソロー、ヘンリー・デイヴィッド『H. D. ソロー』斎藤真他編、木村晴子他訳、研究社、1977年、アメリカ古典文庫、4。

[付記] 本稿は、日本ソロー学会 2020 年度全国大会（10 月 2 日、〇〇大学）のシンポジウム「ソローとエコクリティシズム」における発表内容に加筆したものである。また、本研究は、科研費の助成（JP・・・）を受けたものである。

4. 和書の文献リスト記述法

MLA Handbook 最新版に準じるが、和書独自の規則として以下を補う。

- 1) 記述要素の区切り記号は「、（読点）」「。（句点）」を用いる。「。」は、記述末のみに用い、途中の区切り記号は、すべて「、」とする。ただし、最初の書名（論題や単著の書名など）を示す「 」『 』の前後、及び、上位の書名（共著の書名や雑誌名など）を示す『 』の後の区切り記号は省略する。
- 2) 著者の表記が、文献によって異なる時（例えば、ソーロー、H・D・ソローなど）は、論文本文中の形（例えば、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー）を著者名に用い、その下に著作を集める。
- 3) 巻号、出版年、ページ数は、次のように記述する。数字が、漢数字やローマ数字などで表記されている場合、アラビア数字に置き換えても支障がなければ、アラビア数字に置き換える。文献の巻号に日本語（第 3 巻）と外国語（vol. 3）の両方の表記があれば、日本語の表記を優先する。巻号の表記は、数字を除き、文献の表記通りに記述する。巻と号の間には、区切り記号を付さ

ない。書籍の多巻物全体を表すときは、末尾に「巻」を補い、「7 巻」などと
する。出版年は、末尾に「年」を補う。ページ数は、末尾に「頁」を補う。

〈単著〉

エマソン、ラルフ・ウォルドー「自然」『エマソン論文集』酒本雅之訳、上、
岩波文庫、1972 年、33-109 頁。

ソロー、ヘンリー・デイヴィッド『ウォールデン森の生活』今泉吉晴訳、小
学館文庫、2016 年、上下巻。

〈共著〉

オードワシントン、ステファヌ「第一次世界大戦と男らしさの歴史」小倉
孝誠訳、『男らしさの勝利——19 世紀』アラン・コルバン編、小倉孝誠監
訳、藤原書店、2017 年、541-52 頁、『男らしさの歴史』2。

高木八尺他編『人権宣言集』岩波文庫、1957 年。

フライマーク、ヴィンセント、バーナード・ローゼンタール編『奴隷制とア
メリカ浪漫派』谷口陸男監訳、研究社、1976 年。

〈クロス・レファレンス〉

鶴月裕典「アメリカ先住民——対白人関係史の諸相」、西村、喜納、2-18 頁。

管啓次郎「チカーノ・アパッチの肖像——ジミー・サンティアゴ・バカをめ
ぐって」、西村、喜納、201-19 頁。

西村頼男、喜納育江編著『ネイティブ・アメリカンの文学——先住民文化の
変容』ミネルヴァ書房、2002 年。

横須賀孝弘「北米インディアン口承文学の伝統と『ブラックエルクは語る』
——不断に変容する伝統」、西村、喜納、58-74 頁。

〈雑誌論文〉

小ロー郎「『自然』から『環境』へ——ワーズワスのエコロジー的展開」『ヘ
ンリー・ソロー研究論集』第 46 号、2021 年、65-74 頁。

齋藤直子「ソローの Walking と生き方としての哲学」『ユリイカ』第 56 巻第
第 7 号、2024 年、149-60 頁。